

〈原著論文〉

国会会議録における「V-な過ぎ」「V-なさ過ぎ」 の出現割合と特徴

黒 崎 佐仁子

抄 録

本稿は「な（さ）過ぎ」を含む複合語の使用実態調査を目的とする。過剰を表す「過ぎ」は、様々な品詞と接合する。助動詞「ない」と接合すると、「な過ぎ」や「なさ過ぎ」となり、「さ」の挿入が起り得る。本研究では、以下の問いを課題とする。

- (1) 「な過ぎ」と「なさ過ぎ」の出現割合は変化しているのか。
- (2) どのような動詞が「な過ぎ」または「なさ過ぎ」と接合するのか。
- (3) 「な過ぎ」と「なさ過ぎ」の出現割合は、話者の出身地と関係があるのか。

国会会議録を資料として調査を行い、「さ」の有無は、年代によって割合は変化していないこと、動詞の活用型や話者の出身地が関係していることが明らかになった。

キーワード：複合語、助動詞、補助動詞、否定形、動詞の活用型

1. はじめに

日本語の中には、語形が確定せず、ゆれているものがある。例えば、第20期国語審議会では、慣用的な表現や語法のゆれとして、15の具体例が話題に挙げられている⁽¹⁾。そして、これらの中には「その適否の判断は個人の語感によるところが大きく（中略）どの程度まで認めていくかの判断が難しい」ものがある。

本稿が取り上げるのは、適否判断が難しい「助動詞「ない」+すぎる」と「助動詞「ない」+さ+すぎる」のゆれに、「助動詞「ない」+すぎだ」と「助動詞「ない」+さ+すぎだ」のゆれを加えたものである。（以下、「な過ぎ」「なさ過ぎ」または「な（さ）過ぎ」と記す。）このような「さ」の介入の有無は、「知らな過ぎる／だ」「知らなさ過ぎる／だ」だけではなく、「知らなそうだ」「知らなさそうだ」のように「助動詞「ない」+そうだ」と「助動詞「ない」+さ+そうだ」にも見られる。（以下、「なそう」「なさそう」または「な（さ）そう」と記す。）「な（さ）そう」に關

しては、豊田(1998)⁽²⁾、野田(2003)などの研究があるが、「な(さ)過ぎ」に関しては、「な(さ)そう」ほど取り上げている研究はない⁽³⁾。

本稿は、「な(さ)過ぎ」に焦点を当て、以下の3点について明らかにする。

1. 「な過ぎ」「なさ過ぎ」の出現割合は、変化しているのか。
2. どのような動詞が「な過ぎ」「なさ過ぎ」と接合するのか。
3. 「な過ぎ」「なさ過ぎ」のゆれは、話者の出身地に関係があるのか。

2. 「一過ぎる／だ」の特徴

本稿が研究対象とするのは、「助動詞「ない」+過ぎる／だ」と「助動詞「ない」+さ+過ぎる／だ」である。まず、「過ぎる」および「過ぎだ」の意味を確認する。『明鏡国語辞典』(第二版)は、「すぎ【過ぎ】」について、次のように解説している。

- ①《時刻・年齢などを表す語に付いて》その時刻や年齢を既にすぎている意を表す。
- ②《動詞の連用形に付いて》その程度が度を超している意の名詞を作る。 (p. 898)

本稿の研究対象が含まれるのは、②であり、これは過剰を意味する。

同様に、「過ぎる」の意味も確認する。「す・ぎる【過ぎる】」は、一と二に大きく分けられ、一には、「①ある場所を通り越す。通り過ぎる。通過する。」「②ある時間・期日が経過する。」「③ある時期が終わりになる。」「④事態の推移の中で一定の数量を越える。」「⑤普通の程度を越える。」「⑥《「……に一・ぎた」の形で》……にはもったいないほど優れている。」「⑦《「……に一・ぎない」の形で》程度が低い意を表す。」の意味がある。本稿では、この一は対象外とし、以下の二に注目する。

二《動詞の連用形、形容詞・形容動詞の語幹などに付いて複合語を作る》物事がある程度を越える。度をこえる。「働き一・喜び一・みじか一・多一・静か一・危険一」「自信がなさ一」「あまりにも情けなさ一」「ぎごちな(さ)一」「人の意見を聴かな一」 (p. 900)

上述の「過ぎ」②とともに、この二も過剰の意味を持つ。

複合語の後項となる「一過ぎる」に関しては、姫野(2018)がその特徴として、「他の後項動詞と違って、形容詞、形容動詞、副詞、「である」等と結合する。これは、大きな特徴である。」(p. 34)と述べ、城田(1998)が「生産性にすぐれる。」「過剰相を示す語幹助辞は動詞汎用形ばかりでなく、形容詞・状詞の語幹に接合」(p. 149)すると述べているように、様々な品詞と接合する点が、「一過ぎる」の特徴であると言える。

コーパス検索アプリケーション「中納言」⁽⁴⁾を用いて、現代日本語書き言葉均衡コーパス⁽⁵⁾（以下、BCCWJと記す。）内の国会会議録（1976年から2005年まで）から「過ぎ」「すぎ」「過ぎる」「すぎる」を「書字形出現形」として用例検索を行ったところ、407件の用例を得ることができた。

これを『明鏡国語辞典』（第二版）を参考に分類すると表1の通りとなった。

表1 複合語「一過ぎ／すぎ」⁽⁶⁾

接合する品詞	動詞	形容詞・助動詞	名詞・形容動詞	合計
過ぎ・すぎ	190	31	6	227
過ぎる・すぎる	43	119	18	180
合計	233	150	24	407

接合する語の品詞で分類すると、動詞233件、形容詞・助動詞150件、名詞・形容動詞24件となった。BCCWJの国会会議録（1976年から2005年まで）で得られた用例を以下に挙げる。[]内は、「過ぎ」に接合する語の品詞である。下線は、筆者によるものである。

[動詞] いささか行き過ぎではないだろうかというふうに思っておるわけでございます。

[形容詞・助動詞] しかしながら、この中身を見たら、これはひど過ぎますよ、大臣。

[名詞・形容動詞] 四万円だと小刻み過ぎてこれは非常にグレーゾーンがわかりづらい

「な（さ）過ぎ」で用いられていたのは、以下の5例であった。

- (1) 武器がなさ過ぎるんじゃないかなということをおぼろげに思わざるを得ません。
- (2) 翌年の二月四日国会提出、この間が余りにも時間がなさ過ぎた。
- (3) 余りにも即物的ではなさ過ぎたのかというふうに思うわけございまして
- (4) 国会での審議がやられな過ぎますよ。
- (5) 配慮が余りにも足らなさ過ぎるのではないかとこの感じを強く持っているのであります。

表1では、助動詞「ない」を「形容詞」と共に示す。(1)(2)(3)の「ない」は形容詞の「ない」であるが、(4)(5)は「やられる」「足る」の否定形「やられない」「足らない」に「過ぎ」が付いたものである。本稿が研究対象にするのは、(4)(5)のように助動詞「ない」に「過ぎ」が接合したものである。

また、「な（さ）過ぎ」で出現しているが、「少な（さ）過ぎ」や「危な（さ）過ぎ」「切な（さ）過ぎ」は、「な」の前で切ることができないため、形容詞に「過ぎ」が付いたものと考え、本稿の研究対象には入れない。

[対象外] 七回というのでは、余りにも少な過ぎる。

「過ぎ」「すぎ」を含む複合語407件のうち、「助動詞「ない」+（さ）+過ぎ／すぎ」は2件のみであり、類出する語形ではないと言える⁽⁷⁾。そのため、BCCWJでも、用例数が少なく、「な過ぎ」「なさ過ぎ」の出現割合を提示するのは困難である。そこで、本稿では、帝国議会議録および国

国会会議録をコーパスとして利用することとした⁽⁸⁾。

3. 「な（さ）過ぎ」の出現割合の変化

本章では、国会会議録検索システム⁽⁹⁾ および帝国議会議録検索システム⁽¹⁰⁾ を用いて、「な過ぎ」と「なさ過ぎ」の出現割合の変化について考察する。帝国議会議録検索システムでは1945年9月から1947年3月の本会議・委員会の速記録を、国会会議録検索システムでは第1回国会（1947年5月）から現在の本会議・委員会の会議録を、テキストで閲覧できる。これを利用し、1946年から1965年の期間を1期、2001年から2020年の期間を2期として、それぞれの期間に「助動詞「ない」+過ぎ」「助動詞「ない」+さ+過ぎ」がどのような割合で出現し、また、1期と2期とで、その割合に変化があるのかを調査した。以下、「すぎ」での結果も「過ぎ」に含めて提示する。

用例の収集にあたっては、1期は、以下のように検索設定を行った。

帝国議会議録 開催日付 1946年1月1日から1947年3月
キーワード な過ぎ なすぎ なさ過ぎ なさすぎ OR
国会会議録 開催日付 1947年5月から1965年12月13日
キーワード な過ぎ NOT 少な過ぎ 検索式⁽¹¹⁾
キーワード なすぎ NOT 少なすぎ 検索式
キーワード なさ過ぎ OR なさすぎ 検索式

検索結果から、「助動詞「ない」+（さ）+過ぎ」だけを手作業で抽出したところ、「な過ぎ」は102件、「なさ過ぎ」は106件となった。

2期の検索設定も同様に行った。

国会会議録 開催日付 2001年1月1日から2020年12月31日
キーワード な過ぎ NOT 少な過ぎ 検索式
キーワード なすぎ NOT 少なすぎ 検索式
キーワード なさ過ぎ OR なさすぎ 検索式

2期では、「な過ぎ」が72件、「なさ過ぎ」が93件となった。

表2 出現割合の変化

期間	な過ぎ	なさ過ぎ	合計
1期 (1946-1965)	102	106	208
2期 (2001-2020)	72	93	165
合計	174	199	373

1期と2期の「な過ぎ」と「なさ過ぎ」の出現割合について、連関性を見るため、カイ二乗検定を用いて検定したが、有意差は認められなかった。

つまり、1期の20年(1946年—1965年)と2期の20年(2001年—2020年)で、「な過ぎ」と「なさ過ぎ」の出現割合に変化があったとは言えない。

4. 「な(さ)過ぎ」に接合する動詞

4.1. 動詞の活用型

「助動詞「ない」+ (さ) + 過ぎ」に接合する動詞の特徴を考察するため、前章と同様に帝国議会会議録および国会会議録から、用例の抽出を行った。開催日付は1946年1月1日から2020年12月31日に設定した。その結果、「な過ぎ」380件、「なさ過ぎ」392件の用例を得た。そして、「な(さ)過ぎ」に接合する動詞を五段活用動詞、一段活用動詞、サ行変格活用動詞、カ行変格活用動詞で分類すると表のようになった。

表3 接合する動詞の活用型

	五段活用	一段活用 ⁽¹²⁾	サ変	カ変	合計
な過ぎ	302	73	5	0	380
なさ過ぎ	185	156	49	2	392
合計	487	229	54	2	772

表3の合計から見ると、「な過ぎ」と「なさ過ぎ」の出現数は、380件と392件と大きな差はない。これを動詞の活用型で分類すると、五段活用動詞は「な過ぎ」の出現が「なさ過ぎ」より多く、一段活用動詞、サ行変格活用動詞、カ行変格活用動詞は「なさ過ぎ」の出現が「な過ぎ」よりも多い。ただし、カ行変格活用動詞は出現数が2件であったため、以下、考察から除外する。

表4は、一段活用動詞を「足りる」と「足りる」以外に分けたものである。

表4 一段活用動詞の種類

	な過ぎ	なさ過ぎ	合計
「足りる」	57	39	96
「足りる」以外	16	117	133
合計	73	156	229

一段活用動詞 229 件のうち、96 件が「足りる」、133 件が「足りる」以外であった。「足りる」と「足りる」以外を分けて、「な過ぎ」「なさ過ぎ」の出現数を見ると、「足りる」では「な過ぎ」が 57 件、「なさ過ぎ」が 39 件⁽¹³⁾であるのに対し、「足りる」以外は「な過ぎ」が 16 件、「なさ過ぎ」が 117 件となっており、「足りる」以外では、「なさ過ぎ」が「な過ぎ」よりも多い。「足りる」と「足りる」以外では、このような差が見られたが、その理由については後述することとする。

4.2. 「ない」の前後での区切れ

前節の通り、五段活用動詞では「な過ぎ」のほうが「なさ過ぎ」より出現が多いが、一段活用動詞、サ行変格活用動詞、カ行変格活用動詞では「なさ過ぎ」のほうが「な過ぎ」よりも多かった。その理由は何か。表5は、動詞の活用型ごとに語形をまとめたものである。

表5 動詞の活用形

活用型	辞書形	語幹	ます形	ない形	て形	可能形
五段活用	書く	書k	書きます	書かない	書いて	書ける
一段活用	見る	見	見ます	見ない	見て	見られる
サ変	する	×	します	しない	して	できる
カ変	くる	×	きます	こない	きて	こられる

五段活用動詞と、その他の動詞の違いを「ます形」と「ない形」に求めると、五段活用動詞とカ行変格活用動詞は「ない」の前の一音が、「ます」の前の一音と異なっている。カ行変格活用動詞は、得られた用例数が少ないため、ここでは言及しないが、一段活用動詞とサ行変格活用動詞は、「ます」「ない」「て」の前の一音に音の変化はなく、前後で区切りを付けやすい。これに対し、五段活用動詞は「ます」「ない」「て」の前の一音に変化するため、区切りが付けにくい。つまり、五段活用動詞「書かない」や「読まない」では、「書k」「読m」と「aない」のように、拍で区切りを付けて捉えにくく、「書かない」「読まない」というまとまりで認識される。しかし、一段活用動詞やサ行変格活用動詞では、「見」「食べ」「し」と「-ない」のように区切りを付けて捉えやすい。

この「ない」の前後で区切りを付けやすいか否かが「な過ぎ」と「なさ過ぎ」の出現に影響すると考えられる。その理由に関しては、「な（さ）過ぎ」に接合するものが、動詞以外の場合が参考

になる。

『明鏡国語辞典』（第二版）に従えば⁽¹⁴⁾、「ない」は、「1 形容詞「ない」「2 補助形容詞「ない」「3 1・2の「ない」が付いた形容詞」「4 接尾語「ない」が付いた形容詞」「5 助動詞「ない」が付いたもの」に分類される。まず、「1 形容詞「ない」は「過ぎ」が付加すると、「なさ過ぎ／なさすぎ」となる。以下、用例は帝国議会議録および国会会議録から得たものである。

(6) 少し熱意がなさ過ぎる。

(6) では、「なさ過ぎ」の前に「が」があり、「熱意」と「なさ過ぎ」の間に区切れが認識できる。

以下のような形容詞「ない」に「過ぎ」が付く場合も、「な過ぎ」とはならず、「なさ過ぎ」となる。

(7) ふさわしくなさ過ぎるところなんです。

(8) 情報が十分じゃなさ過ぎるんですね。

(9) 僕は余りにも人間的な行為ではなさ過ぎると思うんですね。

「ふさわしくない」「十分じゃない」「人間的な行為ではない」の「ない」は、「2 補助形容詞「ない」」である。形容詞の否定形は「ない」の前が「く」となる。形容動詞や名詞も否定形では「ない」の前が「では」または「じゃ」となる。ここから、「ない」の前後で区切れが認識できる。つまり、区切れが認識される場合、「なさ過ぎ」が選択されることが考えられる。

「3 1・2の「ない」が付いた形容詞」としては、「だらしない」「情けない」「もったいない」が挙げられる。表6は、帝国議会議録および国会会議録での出現数をまとめたものである。

表6 形容詞や補助動詞の「ない」が付いた形容詞

	頼り-	だらし-	情け-	もったい-	合計
な過ぎ	0	0	1	4	5
なさ過ぎ	3	15	11	11	40
合計	3	15	12	15	45

「情けない」「もったいない」は、「な過ぎ」「なさ過ぎ」の出現があった。以下がその用例である。

(10) 餘りに不満足過ぎ、情けな過ぎる

(11) 一人も何とも思わなかったというのは情けなさ過ぎるというふうに私は思います。

(12) 平時からそれを一〇〇%充足しておくのはいかにももったいな過ぎるではないか

(13) ちょっともったいな過ぎると思うんですね。

(10) や (12) のように「な過ぎ」の出現もあったが、「なさ過ぎ」のほうが出現が多い。これは、「頼りない」「だらしない」が (14) (15) のように格助詞「が」を挿入して用いられることから説明ができる。

(14) こういうわけなんですけれどもこれは私は今のような御答弁では頼りがないと思う。

(15) 私は、本当にだらしないというか、もう情けないなというふうに思うわけです。

つまり、「頼りない」「だらしない」の「ない」は、「1 形容詞「ない」と同様のものと認識されやすいと言える。

「頼り(が)ない」「だらし(が)ない」とは異なり、「情けがない」と「情けない」は、意味が異なる。

(16) ここで私は、その一時金は非情だ、情けがないというふうに考えています。

(17) 情けないんです、嘆かわしいんです。

「もったいない」は「もったいがない」⁽¹⁵⁾とは言わない。しかしながら、「人の情けが身にしみる」「もったいをつける」のように「情け」「もったい」は、名詞としても用いられる。そこから、「ない」の前後で区切れが認識されれば、「なさ過ぎ」が選択されると考えることができる。

「4 接尾語「ない」が付いた形容詞」⁽¹⁶⁾に関しては、用例が少ないため、今後の課題としたい。

以上のように、「ない」の前後で区切りを付けやすいか否かが「な過ぎ」「なさ過ぎ」の選択に影響している。つまり、「ない」の前後で区切りを付けて認識されやすい場合「なさ過ぎ」が選択され、区切りを付けにくい場合「な過ぎ」が選択される。そのため、五段活用動詞では「な過ぎ」の出現が多かったのだと言える。

5. 「足りな(さ)過ぎ/すぎ」と「足らな(さ)過ぎ」

本章では、「足りる」では「な過ぎ」の出現が多く、「足りる」以外では「なさ過ぎ」の出現が多い理由について考察する。

湯澤(1951:39)は、ラ行四段活用の「足る」が東日本ではラ行上一段活用でも用いられるようになり、それが東京語に引き継がれたのだと記述し、さらに、以下のように述べている。

書き記したものについて見ると、(中略)「足る」は、まだかなりの勢力を持っているが、音声言語としては東国地方の言い方が次第に西国地方の言い方に代って、結局文字言語においても、「ラ上一」の「足りる」が圧倒的に勢力を占める時期が来るものと推測される。

(p. 43)

『日本語文法大辞典』(2001)、『文章会話辞典』(2002)にも「足る」「足りる」に関する記述がある。

「現在でも「足りる」と「足る」との間にゆれが見られる。」

『日本語文法大辞典』(p. 459)

「足る」は文語的、関西ふうの言い方であり、「足りる」は東京語の言い方である。」

『文章会話辞典』(p. 314)

つまり、「足る」「足りる」の使用にはゆれがあり、「足りる」は関東、「足る」は関西の表現だと考えられている⁽¹⁷⁾。このゆれを念頭に置き、以下、「足らな(さ)過ぎ」「足りな(さ)過ぎ」の出現について考察する。

帝国議会会議録および国会会議録において「足らな(さ)過ぎ」「足りな(さ)過ぎ」は、どのように出現しているか。話者の出身地をもとにまとめる⁽¹⁸⁾。話者の出身地は、鏈水(2007)の文法による方言区画を参考に、東日本、西日本、琉球の3区画に分ける。ただし、会議録には、参考人や事務次官の発話もあり、出身地が分からない発話者や出身地が日本以外や関東州となっている発言者もいた。そのような発言者に関しては対象外とした。「足らな(さ)過ぎ」「足りな(さ)過ぎ」を複数回発話していた発言者もいたが、表7は実数で提示している。

表7 「足らな(さ)過ぎ」と「足りな(さ)過ぎ」

	足らな(さ)過ぎ		足りな(さ)過ぎ		発言者数 合計(実数)
	足らな過ぎ	足らなさ過ぎ	足りなすぎ	足りなさ過ぎ	
東日本	29		55		84
	20	9	34	21	
西日本	14		24		38
	6	8	9	15	
琉球	1		1		2
	0	1	0	1	
対象外	2		8		10
	1	1	8	0	
合計 (実数)	46		88		134
	27	19	51	37	

表7は、「足らな過ぎ」「足らなさ過ぎ」「足りな過ぎ」「足りなさ過ぎ」の出現数を3区画で分けたものである。「足らな(さ)過ぎ」と「足りな(さ)過ぎ」を比較すると、東日本、西日本では、「足りな(さ)過ぎ」のほうが多い。

東日本に注目すると、「足らな過ぎ」と「足らなさ過ぎ」では、「足らな過ぎ」のほうが多い。「足らない」は五段活用動詞「足る」の否定形である。上述のように、五段活用動詞は、「なさ過ぎ」よりも「な過ぎ」が選択されやすく、この結果は矛盾しない。しかし、東日本では、「足りな過ぎ」と「足りなさ過ぎ」でも、「足りな過ぎ」のほうが多い。「足りる」は一段活用動詞「足りる」の否

定形である。上述の通り、一段活用動詞は「なさ過ぎ」のほうが多い傾向がある。この傾向と「足りな(さ)過ぎ」の出現数の結果とは一致しない。ここから、東日本では「足りない」と「足りない」の混同により、「足りない」が五段活用動詞「足る」の否定形として認識され、「なさ過ぎ」よりも「な過ぎ」の出現が多くなったのだと推測できる

これに対し、西日本では、「足らな過ぎ」が6件、「足らなさ過ぎ」が8件という結果となっており、大きな差はない。また、「足りな過ぎ」「足りなさ過ぎ」では、「足りなさ過ぎ」のほうが多く、これは一段活用動詞の傾向と矛盾しない。

「足りない」「足りない」に関し、湯澤(1951)は次のように述べている。

用い方の差は、必ずしも人によるばかりでなく、(略)同一の人が、同一の作にさえ双方の形を用いるのである。(p. 42)

国会会議録でも、同一人物が「足らな(さ)過ぎ」「足りな(さ)過ぎ」の両方を用いている発話が観察された。

(18) 発言者 A (略) すべて話し合いが足りなさ過ぎて問題を起こしておる。(略)。

発言者 B (略) 私も事実を的確につかんでおりませんので、早速事業団に連絡をいたしまして御説明にあがらしたいと思います。

発言者 A とにかく話し合いが足らなさ過ぎるのです。

(19) 発言者 C (略) こういうようなことで足りるのかということと、研修、実習が余りにも足りな過ぎるのじゃないか、こういうことが考えられなければいかぬ。(略)

発言者 D (略)

発言者 C (略) そういうことについての考慮が少し足らな過ぎる。(略)

発言者 A は西日本出身、発言者 C は東日本出身である。このように、同一人物でも「足らな(さ)過ぎ」「足りな(さ)過ぎ」にゆれが見られることから、「足りない」は「足らない」と混同され、「な(さ)過ぎ」の出現に影響を及ぼしていると考えられる。

6. 「な(さ)過ぎ」の地域差

「な過ぎ」「なさ過ぎ」の選択に、地域差はあるのか。

城田(1998)は「金ガナイー金ガナサスギル ナサソウダというようにソウダとの結合にも見られる sa とこのサは同じものである。」(p. 149)と述べ、『明鏡国語辞典』(第二版)は「「そうだ」「すぎる」との接続」として、「△知らなさそうだ・読まなさすぎる」(p. 1280)のように「な(さ)そうだ」と「な(さ)過ぎ」を併記している。このように、「な(さ)そうだ」と「な(さ)過ぎ」

の「さ」は、同じものとして扱われてきた。野田（2003）は、東北、関東、近畿、九州でアンケート調査を行い、「できる」「似合う」「退屈する」「降る」「する」の「なさそう」「なそう」「そうじゃない」「そうにない」の選択率を調べ、「近畿では「なさそうだ」が選択されやすく、東北では「なさそうだ」が比較的選択されやすい」（p. 142）と述べている。塩田（2016）は、「やらな（さ）そう」「つまらな（さ）そう」も項目に含めた調査の結果を報告し、西日本では「なさそう」を不自然だとしない回答が多かったとする。黒崎（2020）は、県議会会議録を用いて、東北地方と関西地方を比較し、東北地方では「な過ぎ」、関西地方では「なさ過ぎ」が多いという結果を出している。

以上の先行研究を参考に、「な（さ）過ぎ／すぎ」でも、西日本では、「なさ過ぎ／すぎ」の出現が多いと言う仮説を立て、帝国議会会議録および国会会議録をデータとして、「な（さ）過ぎ」の出現を発言者の出身地でまとめた⁽¹⁹⁾。

表 8 方言区画による「な（さ）過ぎ」

	な過ぎ	なさ過ぎ	合計（実数）
東日本	174	179	353
西日本	83	131	214
琉球	4	5	9
対象外	27	18	45
合計	288	333	621

まず、東日本では「な過ぎ」174件、「なさ過ぎ」179件、西日本では「な過ぎ」83件、「なさ過ぎ」131件となっている。西日本は、合計や東日本よりも「なさ過ぎ」の出現割合が大きい。

次に、この結果を接合する動詞の活用型ごとに分けて示す。

表 9 方言区画と動詞の活用形

	五段動詞		一段動詞		サ変動詞	
	な過ぎ	なさ過ぎ	な過ぎ	なさ過ぎ	な過ぎ	なさ過ぎ
東日本	128	70	43	79	3	28
西日本	70	69	12	47	1	15
琉球	4	2	0	3	0	0
対象外	17	8	9	7	1	3
合計	219	149	64	136	5	46

動詞が五段活用動詞の場合、東日本では「な過ぎ」の出現割合が大きい。

一段活用動詞の場合、東日本、西日本のいずれにおいても、「なさ過ぎ」の出現数のほうが多い。一段活用動詞の場合における東日本と西日本の「な過ぎ」と「なさ過ぎ」の出現割合の連関性を見

るため、カイ二乗検定を用いて検定したところ、有意差が認められた。つまり、西日本のほうが「なさ過ぎ」の割合は大きい。

サ行変格活用動詞の場合、東日本、西日本のいずれにおいても、「なさ過ぎ」の出現数が多かった。

以上の結果から、「な（さ）そう」の先行研究では、「なさそう」が西日本で多いと結論付けられていたが、「な（さ）過ぎ」では、接合する動詞が五段活用動詞の場合は、東日本で「な過ぎ」の出現割合が大きく、一段活用動詞およびサ行変格活用動詞の場合は、地域によらず、「なさ過ぎ」の出現が多いことが分かった。

7. おわりに

本稿は、以下の3点について明らかにすることを目的とした。

1. 「な過ぎ」「なさ過ぎ」の出現割合は変化しているのか。
2. どのような動詞が「な過ぎ」「なさ過ぎ」と接合するのか。
3. 「な過ぎ」「なさ過ぎ」のゆれは、話者の出身地に関係があるのか。

まず、帝国議会会議録および国会会議録を用いて、1946年1月1日から1965年12月13日の20年間（1期）と2001年1月1日から2020年12月31日の20年間（2期）の「な過ぎ」「なさ過ぎ」の出現割合を比較した。1期と2期で出現割合に差は認められなかった。ここから、「な過ぎ」「なさ過ぎ」の出現割合は、変化していないと考えられる。

次に、「な（さ）過ぎ」を動詞の活用型で分類した。五段活用動詞では、「な過ぎ」の出現が多かったが、一段活用動詞およびサ行変格活用動詞では「なさ過ぎ」の出現が多かった。

最後に、「な過ぎ」「なさ過ぎ」の出現割合を発言者の出身地から調べた。全体としては、西日本で「なさ過ぎ」の出現が多いという傾向が見られた。しかしながら、動詞を活用型で分類すると、五段活用動詞は、東日本で「な過ぎ」の出現割合が大きく、一段活用動詞およびサ行変格活用動詞では、いずれの地域でも「なさ過ぎ」の出現が多かった。以上のことから、「な過ぎ」「なさ過ぎ」の出現傾向は、地域性だけに求めることはできないと結論付けた。

本稿では、帝国議会会議録および国会会議録を用いて、「な（さ）過ぎ」の出現傾向を求めた。意識調査ではないため、意識調査では認められなかった結果が得られた。今後、接合する動詞が可能形、使役形、受身形、「ている形」である場合にも注目し、どのような選択傾向があるのかを明らかにしていきたい。

注

- (1) 文化庁（1995.11.8）「新しい時代に応じた国語施策について（審議経過報告）」（https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/kakuki/20/tosin03/09.html）〈2021.11.9 確認〉
- (2) 豊田（1998：63）は「なそう」「なさそう」には意味の差はないと述べている。

- (3) 澤田 (2009) が現代書き言葉均衡コーパスを用いた使用例の分析結果を提示している。また、黒崎 (2020) も国会会議録および県議会会議録での調査結果を提示している。
- (4) 国立国語研究所「コーパス検索アプリケーション」(<https://chunagon.ninjal.ac.jp>)〈2021.11.10 確認〉
- (5) 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」は、様々なジャンルの書き言葉 1 億 430 万語を格納したコーパスである。
- (6) 表 1 では、助動詞「ない」と形容詞「ない」は、区別せずに提示している。
- (7) 中村 (2005) は 214 作品 25 作家から 1068 件の複合動詞「すぎる」の用例を採集し、「採集した用例の中に「動詞+ない+すぎる」のパターンは 3 つ見つかったが、それらはすべて「～なすぎる」の形だった。」(p. 174) と述べている。
- (8) 国会会議録のコーパス利用に関しては、松田 (2008) を参考にした。
- (9) 国立国会図書館「国会会議録検索システム」(<https://kokkai.ndl.go.jp/#/>)〈2021.11.9 確認〉
- (10) 国立国会図書館「帝国議会会議録検索システム」(<https://teikokugikai.ndl.go.jp/#/>)〈2021.11.9 確認〉
- (11) 黒崎 (2020) が指摘するように「な過ぎ」での検索では「少な過ぎ」が非常に多く収集されるため、「少な過ぎ」を検索対象から外している。
- (12) 「一段活用動詞」には、五段活用動詞の可能形、受身形、使役形および「ている」や「でいる」の縮約形も含む。
- (13) 「足りな(さ)過ぎ」では、「な過ぎ」が多いことは、黒崎 (2020) が指摘している。
- (14) p. 1280 「ない」のコラム「「……ない」の種類」より。
- (15) 2021 年の国会会議録には「もうこれで時間をどんどん食っていくのももったいないので次に進めさせていただきます」という用例があった。
- (16) 「附録」に「正誤」として、「えげつな過ぎ」が誤であり、「えげつなさ過ぎ」の正へ修正するとの記載がある。
- (17) 塩田 (2020) は、意識調査を行い、東日本では「足りない」の選択者が多く、西日本では「足らない」の選択者が多いという結論を出している。
- (18) 「デジタル版 日本人名大辞典 + Plus」(<https://kotobank.jp/dictionary/nihonjinmei/>)〈2021.11.12 確認〉や『新訂 政治家人名事典 明治～昭和』日外アソシエーツ 2003、各党のウェブサイトや資料として、出身地を調べた。
- (19) 香月 (2008 : 232) は発言者を出身地で分類することの問題点を指摘している。

参考文献

- 北原保雄 (編) 『明鏡国語辞典 第二版』大修館書店 2002.
- 黒崎佐仁子「選択のゆれ—「-な過ぎ」と「-なさ過ぎ」の使用率—」『聖学院大学論叢』第 32 巻 第 2 号 2020 年 3 月 pp. 93-108.
- 澤田久美子「「なさすぎ」などにみられる剩余的な要素「さ」—「さ」の使用における揺れについて—」愛知教育大学 平成 20 年度 修士論文 抄録 2009 年 3 月.
- 塩田雄大「“させていただきます”について書かせていただきます—2015 年「日本語の揺れに関する調査」から②—」『放送と調査』NHK 出版 2016 年 9 月.
- 城田俊『日本語形態論』日本語研究叢書第 2 期第 8 巻 ひつじ書房 1998.
- 中村嗣郎「「すぎる」構文—書き言葉における実例の分析—」『コミュニケーション科学』22 巻 2005 年 3 月 pp. 139-177.
- 日外アソシエーツ (編) 『新訂 政治家人名事典 明治～昭和』日外アソシエーツ 2003.
- 豊田豊子「「そうだ」の否定形」『日本語教育』第 97 巻 1998 年 7 月 pp. 60-71.

- 野田春美「様態の「そうだ」の否定形の選択傾向」『日本語文法』3巻2号 2003年9月 pp. 131-145.
- 野元菊雄「V用字用語・修辞文法辞典」『文章・会話辞典』ぎょうせい 2002.
- 姫野昌子『新版 複合動詞の構造と意味用法』研究社 2018.
- 香月真由美「国会会議録における気づかない方言—「あっている」についての一考察—」第9章『国会会議録を使った日本語研究』松田 謙次郎（編）ひつじ書房 2008 pp. 207-233.
- 山田明徳・秋本守英（編）『日本語文法大辞典』明治書院 2001.
- 鏈水兼貴「『方言文法全国地図』における共通語化の状況—多変量解析を用いた分析—」方言文法全国地図をめぐる—『方言文法全国地図』を読む—『日本語学』26巻11号 明治書院 2007年9月 pp. 112-119.
- 湯澤幸吉郎『現代口語の実相』新光社 1951.

The actual use of compound words including V-NASUGI or V-NASASUGI.

Satoko KUROSAKI

Abstract

This study aims to demonstrate the actual use of compound words including V-NA (SA) SUGI. SUGI means “excessive;” it can connect various parts of speech. For example, when SUGI is connected to the auxiliary verb NAI, it can form either NA-SUGI or NA-SA-SUGI. In other words, SA is sometimes inserted even if it is unnecessary.

This study seeks to answer the following questions:

- (1) Has the appearance ratio of NASUGI to NASASUGI changed?
- (2) What type of verbs connect with NASUGI or NASASUGI?
- (3) Are there regional differences in the appearance ratio of NASUGI to NASASUGI?

The examination of speeches in Diet sessions using the Diet record reveals no change in the appearance ratio of the presence or absence of SA depending on the speaker’s age; however, insertion of SA is relevant to the type of verb conjugation and birthplace of speakers.

Key words: Compound Word, Auxiliary Verb, Subsidiary Verb, Negative Form, Verb Conjugation